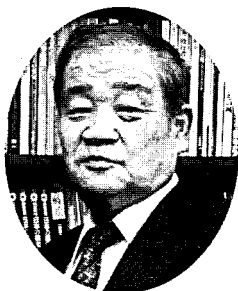


新しい取組み

九州国立博物館 館長 三輪嘉六



◆プロフィール◆

三輪 嘉六 (みわ かるく)

昭和13年2月17日

岐阜県瑞浪市生まれ

【現職】独立行政法人国立
文化財機構
九州国立博物館長

【職歴】奈良文化財研究所、

文化庁主任文化財調査官、東京国立文化財研究所修復技術部長、文化庁美術工芸課長、同文化財鑑査官、日本大学教授、九州国立博物館準備室長を経て、2005年より現職。文化財保存修復学会会長、日本考古学会評議員、NPO法人文化財保存支援機構理事長も務める。

近年の博物館など文化財公開施設をめぐる諸問題の中で指定管理者制度の導入は、改めて博物館のあり方を議論する機会ともなった。もともと文化財の世界は市場原理や採算性に馴染むものではないが、博物館へのこの制度の取入れは、もしかしたら博物館側にも問題があったのではないかとさえ思っている。つまり、これまでの多くの博物館は「来たい人だけ」「見たい人だけ」が来館すれば、目的が達せられるとの考え方に支配されていたことは否定できない。確かに我々の先輩も、仲間達もそうしたことを広言していた。いわば「経営感覚」の無さや「非効率性」を含めて、博物館の体制運営が万全であったとは決して言えない。組織や民間への委託を要請する声が高まることも、いまの社会情勢にあっては自然の成り行きとも言えよう。また、多くの博物館は内外の評価査定を基に運営する仕組みになっているが、ややもすると量的評価に陥り易いことが問題だ。展覧会や文化財の保存の質や内容を糺すような評価である定性評価は、実際には測り難い。しかし本来はこれを求め続けてこそ真の博物館づくりへの道が拓かれることになると思う。こうした状況に近づくために、博物館およびそれを取りまく環境づくりに努力しなければならない多くの課題がある。

ここでは、その一つとして博物館組織の中に保存科学の機能を設置する必要性を訴えたい。言うまでもなく、博物館の役割の一つは展示資料でもある文化財を保存することにある。収蔵や展示の業務は、保存の理念を抜きにしては考えられない。各種文化財の健康診断をはじめ、展示環境や保存環境を整えることは業務の大きな責務であり、この達成があってこそ市民社会に対する博物館の役割が果たせたとさえ言えるであろう。しかし、この分野の活動はどちらかと言えば、学芸員の責務に委ねる傾向にあったのが実情である。しかもこの学芸員の多くは、人文系の研究員等であり、少なくとも保存科学の分野を修めたわけではない。「博物館法」という法的整備が出来た既に60年以上にもなるが、そこで積極的に唱えられていないこともあって、保存科学に関する各博物館の対応はごく一部を除き殆ど不問のままにきている。これからの博物館の必要不可欠な組織として保存科学体制を設置することの必要性を強調したい。

私の所属する九州国立博物館は、行政改革の流れのなか独立行政法人としてスタートした。これまでにない新鮮さを求めるためにも博物館科学(保存科学)を組織化した。そしてこれを博物館の新しい見せ方の場としても活用した。つまり、博物館がどのように文化財の保存と関わりを持っているか、市民により分かり易く提供するあり方である。ここでは近年問題にもなっている IPM (総合的有害生物管理) への取組み等も含め、博物館は勿論、見る人にとっても文化財にとっても安心・安全な環境づくりへの対応である。大事なことはこうした取組みにボランティアの人達の参加を得ること、更にそうした保存環境の場を一般の市民が見られるようなあり方である。敢えてここで披露すれば、収蔵庫の壁に窓を開け、廊下から文化財収蔵の場を見学できるようにしている。いわば、開放型の主張の一つで、こうした取組みは確実に利用者の増加につながっている。

この十月中旬で開館2周年、その間の入館者数約380万人は、そんな新しい取組みに関心を抱いていただいた結果と思っている。

平成19年度 東海地区博物館連絡協議会「日本博物館協会東海支部総会に参加して」

日 時：平成19年7月25日(水)

会 場：静岡県立美術館

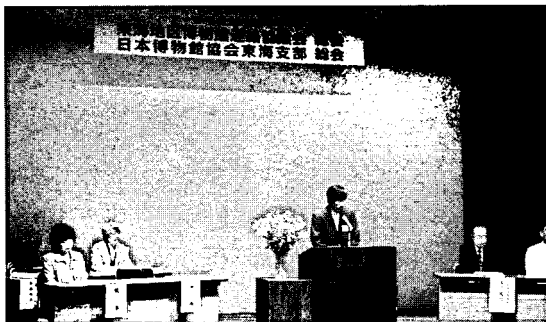
参加県：山梨、静岡、神奈川、愛知、岐阜(62名 岐阜県から7名)

平成19年度東海地区博物館連絡協議会の総会会場となった静岡県立美術館は、JR草薙駅の南、歩いて10分の丘の上にあり、風光に恵まれ、緑豊かな素晴らしい自然環境のなかにありました。本館はどっしりとした落ち着いた雰囲気の建物で、別館のロダン館はドーム状の現代的な建物です。収蔵品は東西の風景画とロダンの彫刻を中心に、国内外の充実したコレクションを有し、とても魅力ある県の文化施設でした。

協議会が開催された7月25日には、展示会「NHK日曜美術館30年展」が開催されており、他にも1階の県民ギャラリーでは「石田徹也ー悲しみのキャンバス」、ロダン館においては、「ロダンの友人たち、同時代人たち」など、充実した内容の展示会がいくつも開かれていました。

[総会]平成19年度の東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会には、45園館62名の出席者がありました。

はじめに東海地区博物館連絡協議会会長宮治 昭氏よりご挨拶があり、続いて来賓の日本博物館協会専務理事の久保庭 信一氏、静岡県教育長 遠藤 亮平氏から祝辞が述べられました。その中で、静岡県を事例に挙げ、地域と共に歩む博物館を目指し、更なる飛躍を期待していますと、お言葉がありました。

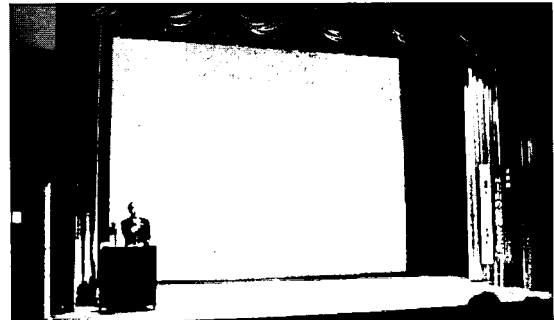


その後、平成19年度の監事の選任や、事業計画、予算案など5つの議題について話し合いの場が設けられ、その中で、来年度の開催県は愛知県と決定されました。ちなみに本年度は、表彰規定の該当者がおらず、表彰は行われま

せんでした。

最後に、日本博物館協会の主要事業に関して、先述の久保庭氏よりお話がありました。内容は、「イコム国際博物館の日」記念事業の実施や、博物館の経営・運営指標(ベンチマーク)づくり、子ども夢基金「少年自然の家などの自然環境を活用した自然環境玉手箱100」事業などについて、中でも博物館の経営・運営指標(ベンチマーク)づくりは、「ここ数年来にみられる、公共の文化施設の官から民への大きな流れの中で、各施設は改めてその基本的な在り方が問われており、関係当事者がその施設の在るべき姿を共有し、状況の変化に対応していくことが求められている。そんな現代において、非常に重要で、効果的なものになるだろう。」とおっしゃられました。また、新しい時代の博物館制度の在り方について、博物館登録制度の今後の課題や、学芸員制度の問題点についてもお話がありました。

[講演会]



講演会では富士山本宮浅間大社宮司 渡辺新氏より「富士山の信仰と文化」についてのお話がありました。2007年にユネスコ世界遺産暫定リスト入りを果たした富士山、その富士山の歴史はとて古く1億3000万年前の遺跡が見つかるそうです。また、桓武天皇や坂上田磨呂など有名な歴史上の人物が、富士山を信仰の場、あるいは身を隠す場所としたことなど、大変興味深い内容でした。

(機関紙委員 岐阜県世界淡水魚園水族館

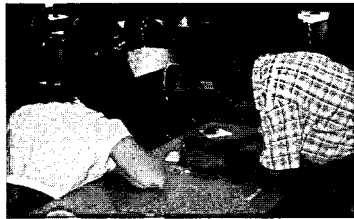
堀江真子)

第110回岐阜県博物館協会公開講座報告

演 題：「昆虫標本づくり」と「昆虫おもしろ話」
期 日：平成19年7月28日(土)
会 場：ハートピア安八(歴史民俗資料館)
講 師：名和昆虫博物館長 名和 哲夫氏
参加者：30組(親子58人)

【昆虫標本展「世界のカブトムシ・クワガタムシとその仲間たち」】

ハートピア安八では、子ども達に昆虫に親しみ興味関心を持ってもらえたらとの願いから昆虫標本展を開催してきました。今年は「世界のカブトムシ・クワガタムシとその仲間たち」をテーマに開催しました。大人気のヘルクレスオオツノカブトを始めとする76種類261頭の標本展を7月21日～8月5日までの14日間開催した。連日大勢の観覧者で賑わいました。巨大なカブトやクワガタを目にした子どもやお母さんからは、「すごーい」「大きい」「ほしい」などの声とともに、中には「これ本物？」との声も聞かれました。

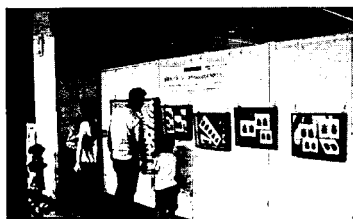


【講座「昆虫標本づくりと昆虫おもしろ話」】

展示期間内の7月28日前記標本展に併せてゴホンツノカブトの標本づくりと昆虫おもしろ話と題した講習会を、県博物館協会の公開講座として開催した。名和昆虫博物館長の名和哲夫氏の指導を受け、30組58人の親子が、標本づくりに取り組みました。

始めはこわごわ刺していたピンも慣れと共に形良く整えられていきました。最後には名和館長の手直しを受け立派に完成した標本を大事そうに持ち帰りました。途中、昆虫の捕まえ方や標本づくりの常識の間違いなど昆虫採取・飼育にまつわる話を交えての製作となりました。また、子どもより母親が熱心に作成している姿もみられました。

名和館長の「大抵に飼育した後は、標本としても楽しんでください」との言で終了しました。



(ハートピア安八館長 梶井芳景)

第111回岐阜県博物館協会公開講座報告

期 日：平成19年8月4日(土)
会 場：光記念館
参加者：約150名

この度、光記念館では岐阜県博物館協会との共催により「エジプト博士の展示解説Ⅱ」と題しエジプト文明研究家 村治笙子先生をお招きして、第111回公開講座が行われました。

光記念館では、現在「エジプト展」を開催しております。

エジプト文明は世界で最もよく知られる古代文明であり、その悠久の文化遺産は現代人の興味をかりたてて止みません。

村治先生は講演の中で、「エジプトは日本から遥かに離れた地にありながら、ピラミッドやスフィンクスに代表される巨石建造物やアレクサンドロス大王、クレオパトラ女王などの歴史上の著名な人物を生んだ国として、いつも多くの人のロマンをかき立てています。



しかし、それはこの国のもつわずかな一面であり、砂漠の国としてイメージされるエジプトも実はわが国と同じように、今も水の恵みを受けた緑豊かな農業国であり、古代には八百万の神々を祭っていた多神教の国でもありました。農業と関わりのある太陽神や来世で冥界の王となった穀物神オシリスは、大河ナイルとともに、古代の人々に再生復活の思想をもたらしました。彼らは再生復活のため沢山のミイラをつくり、墓に副葬品を納めました。

人なつこく明るい現代のエジプト人は、自国の歴史の中から多くのものを学び取り入れ、旅行者としてのわれわれを暖かく迎え入れてくれます。そのような彼らの国、エジプトの5千年の歴史すべてをこの会場の中で体感して頂きたいと思えます。このエジプト展でご来場の皆様のエジプトへの理解が深まり、さらなる興味を広げて頂ければ幸いです。」と述べておりました。

参加者は定員を大きく上回る約150名の大盛況で、大人から子供まで幅広い年齢層の方々が参加され、先生の説明に熱心に聞き入っていました。

(機関紙委員 光記念館 吉井隆雄)

第112回岐阜県博物館協会公開講座報告

期 日：平成19年8月15日(水)
会 場：松井屋酒造資料館
参加者：8名

焼け付くような記録的猛暑のなか、「日本酒造りに命をかけた熱き思い」と題し、第112回公開講座が加茂郡富加町の松井屋酒造資料館(館長・酒向嘉彦さん)で開催されました。江戸時代後期(寛政7年)の主屋の建物は町屋の特徴を今に伝えており、落ち着いた帳場も当時のたたずまいを感じさせます。

お酒ができるまでには何回もの段階があり、かなり複雑です。資料館であるこの酒蔵には、原料からお酒が完成するまでの工程が順序よくわかりやすく解説しており、当時の様子がよく伝わってきます。釜場や糟場、麴室(こうじむろ)、甑二階(もとにかい)など実際に使った場所に酒造りの道具が再現形態で展示してあります。



これら酒造りの道具約3,600点はきわめて貴重な資料群として岐阜県の重要有形民俗文化財に指定されています。

また、蔵の2階には、松井屋酒造に伝わる生活道具が所狭しと展示してあります。系統的に並べられ一つひとつの道具にラベルが付けられていました。これだけ大量の資料を整理するにはかなりの時間と手間がかかったことが推察されます。

酒造りには、工程ごとに多くの人々が関わらないと完成しません。当主の酒向さんは特に明治から昭和30年頃まで岐阜・日野から杜氏として働いていた人々について感謝の気持ちを話しておられました。まさに酒造りに命をかけてきた人々の熱い思いが伝わってきました。

参加者はやや少なかったですが、それぞれの質問に答えて頂くようなかたちで当主と身近に言葉を交わすことができました。来場者は蔵の中もじっくりと見学し、アットホームな楽しい公開講座となりました。

(機関紙委員 美濃加茂市民ミュージアム 可児光生)

第113回岐阜県博物館協会公開講座報告

演 題：第1部 能入門
第2部 能面の話と実演
会 場：羽島市歴史民俗資料館
講 師：金剛流 牧野元子氏
面工房竹曾 竹市幸司氏
参加者：65名

「能」というと難しいもの、遠くから鑑賞するものという先入観をもたれているので、身近な文化ということを知ってもらいたいという願いで計画が立てられた。

第1部の「能入門」では、「高砂」の終盤の部分(夜になって友成が住吉へいくと、住吉明神が現れて宮つ子たちの奏でる神楽につれて神舞を舞って国家安泰を祝福する。)の謡の練習を参加者を含む全員でおこなった。次にその謡に合わせて一部の観覧者が指導を受けながら仕舞を舞った。講師に続いて声を挙げたり、男性と女性と別れて謡うなどして全員参加型の講座となった。そのため大変盛り上がり、私自身楽しく受講できた。

第2部では、「能の歴史」「囃子」「装束」そして「能面」について具体的に面白い話をお聞きした。

「能面」は100種類ほどあるという。例えば若い女性、中年の女性、老女、そしてそれぞれの内面(嬉しさ・怒り・・・)を表した能面があり、その特徴を興味深くお聞きした。「眉毛の位置」「隠す耳」「目の形」等観客に訴えるためにいろいろ工夫されていることが分かった。

この講座は企画展「能文化の伝承と装束・小道具」展(～9月30日)の中での催であるので、会場には多くの能面・装束・囃子の楽器が展示してあり、よい雰囲気での講座であった。

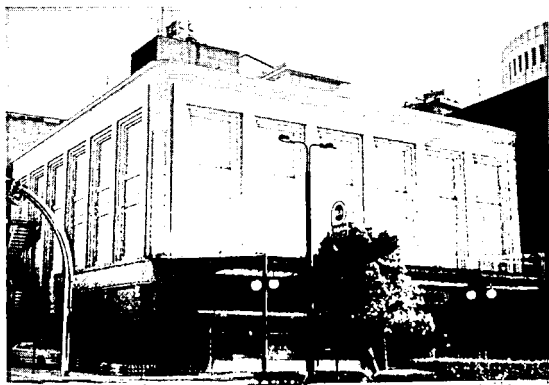


(機関紙委員 海津市歴史民俗資料館

瀬古尹宏)

大垣市 守屋多々志美術館

〒503-0887 大垣市郭町2-12
TEL : 0584-81-0801
FAX : 0584-81-0801
<http://www.city.ogaki.lg.jp/shisetu/e04.htm>



『故郷大垣は、いつも私を優しく励ましてくれました。幼い頃、友達と楽しく遊んだ水門川、住吉灯台、夏祭りのお囃子。復員列車を降りたって啞然とさせられた眼前に広がる焦土と化した街並。そして近代都市としてめざましい発展を遂げた今日。いずれも私にはかけがえのない故郷でございます』

～守屋多々志美術館開館によせて（抜粋）～

文化勲章受章者で日本美術院同人であった守屋多々志画伯は1912年（大正元年）に大垣に生まれました。当時の大垣中学を卒業した春、朧にかすむ大垣城に志を誓い、大垣駅を旅立ちました。前田青邨画伯のもとで、守屋画伯の将来を左右する“誠実に描くこと”を学び、東京美術学校・イタリア留学等を経て、画業の研鑽を積み、やがて日本や中国の歴史にもとづいたテーマをそれまでにない大胆な画面構成と主題の新しい解釈によって描き、歴史画の第一人者として活躍してきました。その画業の広さと深さ、斬新さ、そして他に例を見ない歴史の一瞬のとらえかたはすばらしいものがあります。

文部大臣賞をはじめ、数々の賞を受賞した再興日本美術院（院展）への出品作品。前田画伯に師事してから一日も欠かさず描き続け

た25,000枚以上の絵日記。画家への礎となった学生時代の素描やスケッチ等、己の画法を求め続けて様々な努力を積んできた守屋画伯の生き様が映し出されています。

守屋画伯のその残された作品からは、今でも多くの感動や画伯の情熱、そして故郷大垣への深い郷愁が感じられます。ライフワークの一環として挙げられる芭蕉句を独自の解釈によって扇形に描いた「扇面芭蕉」。大垣と芭蕉のゆかりは守屋画伯の承知のところであったでしょう。また、復員後、最初に描かれた「ふるさとの家」、最後の大垣藩主戸田氏共公の妻・極子夫人を描いた「ウィーンに六段の調」、数多くの「大垣スケッチや住吉灯台」等、故郷大垣は守屋画伯にとって生涯、心のよりどころであり、守屋芸術の原点であったのかもしれません。



「ウィーンに六段の調（ブラームスと戸田伯爵極子夫人）」
平成4年 第77回院展作品

「大垣市守屋多々志美術館」は平成13年7月暫定的に開館しました。以来、当美術館では、こうした貴重な作品・資料の調査・整理を随時進め、常設展ではなくすべての作品を入れ替え、年間2回の特別展、年間4回の企画展を開催しています。今後も、教育・美術・文化活動の拠点となることを目指し、生涯にわたる学びの場として芸術への造詣を深めていただけるような活動を進めていきます。是非ご来館いただき、守屋芸術の真髄を感じていただけたら幸いです。

《開館時間》午前9時～午後5時

《休館日》・毎週火曜日（その日が祝日に当たるときは開館し、翌日が休館）

・祝日の翌日・12月29日～1月3日・展示替え等期間（2ヶ月毎、不定期）

《入館料》大人300円（20人以上の団体は半額）、高校生以下無料

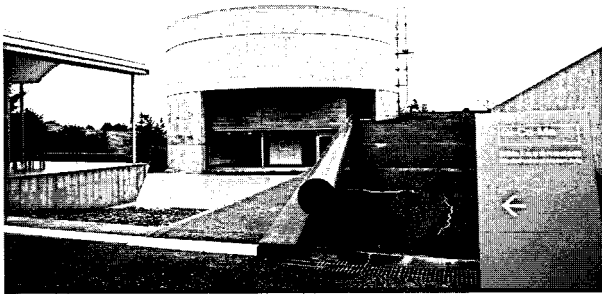
（守屋多々志美術館 小原玉路）

Gi-Co-Ma
岐阜現代美術館
Gifu Collection of Modern Arts

**岐阜現代美術館
(Gi-Co-Ma)**

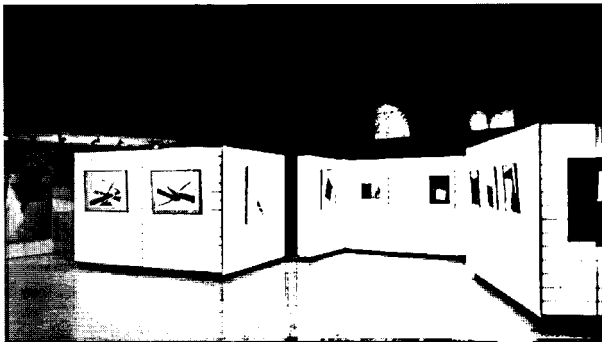
〒501-3939 関市桃紅大地1番地
鍋屋バイテック会社関工園内
財団法人 岐阜現代美術財団

TEL : 0575-23-1210
FAX : 0575-23-1218
http://www.gi-co-ma.com



◆岐阜現代美術館概要

岐阜現代美術館は、関市の鍋屋バイテック会社関工園内に2006年秋オープンしました。建物は1993年度「日経ニューオフィス推進賞(通商産業大臣賞)」を受賞しました。緑豊かな森が背景に広がり、従来の美術館にない斬新な円筒型ドームの建物の前には、プールとカスケードが配されています。せせらぎの音を聴きながら、ゆるやかなスロープを上がると、美術館2階にエントランスがあります。



外観と同様、展示室内はコンクリートが使われ、フローリングの床やプールに面したガラス壁を通して差し込む光が居心地よい空間を作っています。また、行灯式衝立の展示壁を使用しており、和紙のやわらかな光の中に静かにそして時には鋭く、墨の作品が浮かび上がります。このように、当館は「絵画と光」、また「光と翳、そして音」が出会う空間なのです。

◆展示活動

岐阜現代美術館は岐阜にゆかりのある篠田桃紅の書、ドローイング、リトグラフ作品を約800点所蔵しております。それら桃紅コレクションを中心に、年3回企画テーマ展示をしています。

展示では、常時約30点の作品を展示しており、桃紅作品の変遷を展覧することができます。

◆その他の活動

芸術の情報発信の場として、絵画展示と同時に定期的にコンサートを実施しています。

また、文化活動として講師をむかえ、七宝焼、ペン習字、フラワーアレンジメントなどのカルチャー教室を毎月開催しています。



《アクセス》

[公共交通機関利用の場合]

JR東海道本線：岐阜駅よりタクシーで30分
名鉄犬山線：鷺沼駅よりタクシーで20分
三柿野駅よりタクシーで15分

[車の場合]

東海道北陸自動車道：関ICから約15分

《開館時間》 9:00~16:30

《休館日》 日曜日、祝祭日、年末年始

《入館料》 無料

(岐阜現代美術館 宮崎香里)

博物館協会への御支援

平成19年度協会が実施する博物館活性化事業に次の企業等から助成金をいただいています。

財団法人 田口福寿会
株式会社 十六銀行
株式会社 大垣共立銀行
岐阜信用金庫